２０１７，１０，２８　　**近江坂・大日岳縦走トレッキング記**

お天気予報が良くなく、今日は雨だァ・・と思って覚悟を決めて出発。しかし、小雨に少し出会っただけでラッキでした。ブナ原生林も黄葉し始め綺麗でした。山の柿やサルナシの実がなっていて楽しくなりました。帰りに道の駅藤樹の里あどがわに寄り、お土産購入を楽しみました。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆歴史　近江坂：この古道は、近江酒波寺（西暦７４１年　僧行基開創の寺院）と若狭闇見神社（式内社）の間を人馬が往来した道である。一名馬道（うまみち）とも言う。この峠道は、普通の峠道の役割のほかに、若狭のお坊さんが馬に乗って越してきた道だった。昔は、能登越え・大日岳から三十三間山にかけて山は近江の山であり、酒波寺（箱館山山麓にある古寺）の寺領であった。ところが織田信長が越前の朝倉氏を攻めた時、山手米（やまのてまい）という一種の税金を賦課した。だが酒波寺では納税出来なかったので、倉見・能登野に、このあたりの山入（炭や薪をとる）を認めて、その年貢を若狭倉見から近江に運んだ。その時一緒に成願寺（能登野の南にある村）の闇見神社にあった大般若経の経巻６００巻（実際は５９９巻）を酒波寺に納めたといわれる。その時以来毎年近江坂の道を通って酒波寺の経巻を拝みに行く慣例が出来たらしい。成願寺には、闇見神社のほかに岡本坊と大坊（だいぼう：現存）という荘園寺院があって、ここの偉いお坊さんが近江坂を馬に乗って往復したのである。この行事は今も続いているそうだが、ただし今は自動車が用いられている。４００年以上近江坂が用いられた。

◆トレッキングの様子

川を渡る

電波塔跡から大日岳へ

ブナの木の樹幹流を撮る

大日岳山頂

下山①

下山②

◆自然観察

サワガニ

サルノコシカケ①

サルノコシカケ②

カエル

虫　？

煙突の穴跡

熊の爪跡

シラキの実

ブナの木　樹幹流①

ブナの木　樹幹流②

熊の爪跡

サワフタギ

キタヤマブシ

タラノキ

アセビの蕾

シラキの実

シラキの実

シラキの紅葉

湖西地域の紅葉は、シラキが、早く紅葉する

ナナカマドの実

サルナシの実①

サルナシの実②

きのこ